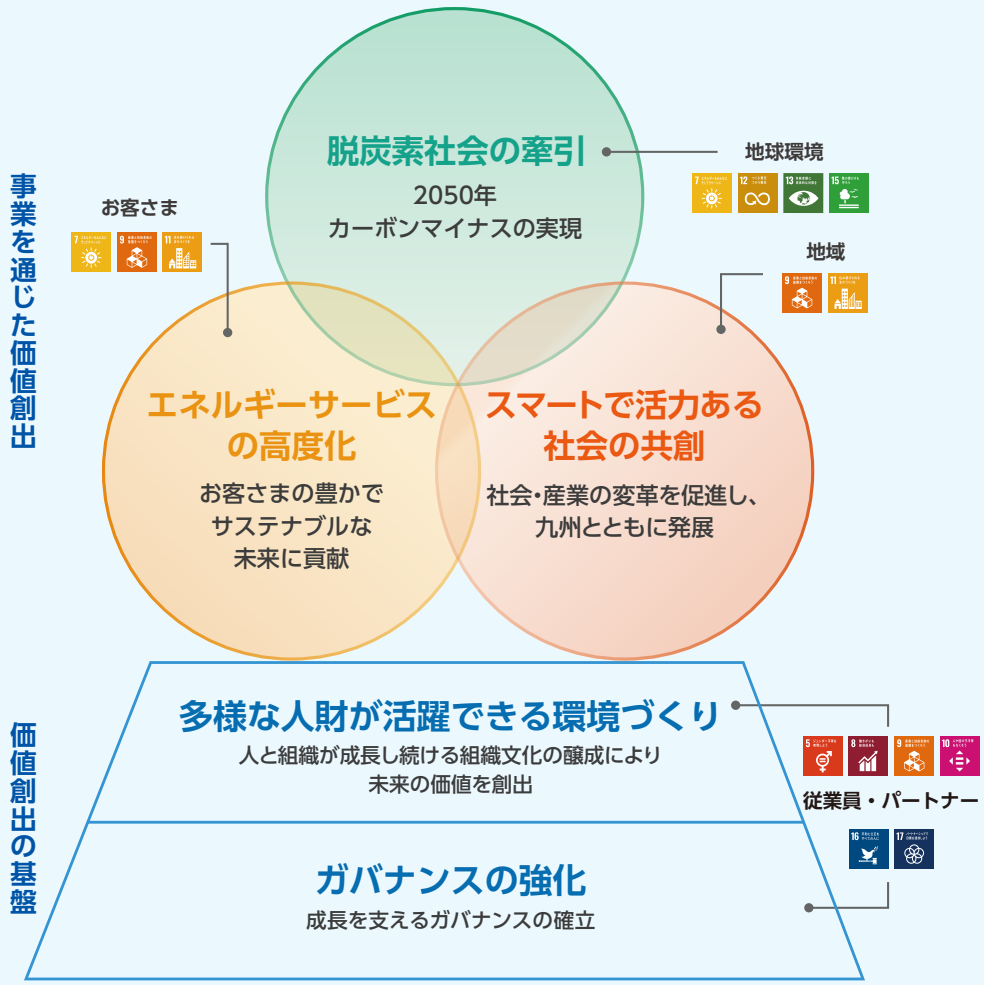
九電グループのマテリアリティ

マテリアリティについては、社会情勢や経営環境の変化を踏まえ、継続的に見直しを図っており、2024年4月には、人的資本経営の観点から取り組むべき課題の領域を明確にし、取組みを推進することを目的として、マテリアリティ及び主要課題の表現を一部見直しました。



青字は見直し箇所

	マテリアリティ	目指す姿	主要課題
事業を通じた価値創出	脱炭素社会の牽引	2050年 カーボンマイナスの実現	・電源の低・脱炭素化（再エネ主力電源化、原子力安全・安定運転、海外事業等） ・電化の推進 ・省エネの推進 ・環境負荷の低減 ・エネルギー政策への提言・関与
	エネルギーサービスの高度化	お客さまの豊かで サステナブルな 未来に貢献	・エネルギーの安定供給 ・低廉なエネルギー ・エネルギーサービスを核としたソリューションの提供
	スマートで活力ある社会の共創	社会・産業の変革を促進し、 九州とともに発展	・スマート社会の実現 ・地域の活性化（地方創生等） ・安心・安全で快適なまちづくり
価値創出の基盤	多様な人財が活躍できる環境づくり	人と組織が成長し続ける 組織文化の醸成により 未来の価値を創出	・人と組織の進化による価値創出 ・経営戦略と連動した人財戦略 ・DE＆Iの推進※ ・働き方改革 ・DXの推進（事業構造・プロセスの変革等） ・安全と健康の最優先 ・人権の尊重
	ガバナンスの強化	成長を支える ガバナンスの確立	・コーポレートガバナンスの実効性向上 ・リスクマネジメントシステムの強化 ・コンプライアンスの徹底 ・サプライチェーンマネジメントの強化 ・情報セキュリティの確保 ・ステークホルダーエンゲージメントの充実（ステークホルダーとの信頼構築等） ・財務体質の改善・強化

※：D（Diversity）＝多様性：多様な存在を「認めること」、
E（Equity）＝公平性：多様な人材が活躍できるよう「個々の事情に合わせて支援すること」、
I（Inclusion）＝包摂性：多様性を「受け入れ」、多様な人材が「活躍していること」
の視点を踏まえた制度設計・意識醸成等による価値創出